

英語の資格試験の改訂とその傾向と対策について

田村 聡子*

Regarding the Revisions of the English Qualification Tests and Strategies for Dealing with It

Akiko Tamura

Abstract - Drastic revisions were made in the two major English qualification tests this year: TOEIC and Eiken. The TOEIC test was revamped for the first time in ten years. A writing problem has been added to the second grade of the Eiken test from the June round of the test. This introduction of a writing problem makes the test more comprehensive test to measure the four skills: listening, reading, speaking and writing. There is a tendency that these tests are changing their contents to be more practical. In this paper I would like to clarify the background of the revisions of the tests, and focus on the amendments of the tests and how to take measure to tackle the problems of these newly revised tests.

KEYWORD: Eiken, TOEIC, revisions

1. はじめに

今年、英語の各資格試験が大幅に改訂された。TOEICは1979年に第1回公開テストを実施。06年に出题形式が大幅に改訂されており、今回は10年ぶりの2度目の大改訂となる。英検も16年度第1回の試験より2級問題にライティングを導入し、4技能化をバランスよく図った。今回の改訂は、生徒学生の英語力を向上させるため4技能をバランスよく測ることができる効果的な資格試験・検定試験を作り出すことが目的とされている。そして生徒学生の英語学習の目的、英語力、継続的な英語学習に適合した資格・検定試験として活用されるために試験の一貫性を確保し、生徒学生が主体的に学習する態度・姿勢を身に付けるという観点から、また英語学習への動機付けにつながる手段として活用されるという見地から改訂がなされた。本稿では、日本で主要な英語の資格試験であるTOEICと英検の改訂の背景と改訂された試験にどのように取り組めばよいのかの対策を考察したい。

2. 英語検定改訂の背景

今回の英検2級、準2級の改訂には文部科学省が2020年に向けての学習指導要領の改訂、また大学入試試験改革を打ち出したことが背景にある。

2015年3月17日、文部科学省の諮問機関である「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」(以下、「連絡協議会」)から、「英語の資格・検定試験の活用促進に関する行動指針(案)」が発表された。そこには大学や高等学校をはじめとする各学校は、入学者選抜や生徒の英語力評価に4技能をバランスよく測定できる資格・検定試験の効果的利用を促進する旨が明記されている。文科省は資格・検定試験の有効性を踏まえた活用を促進しており、各中学校、中等教育学校、高等学校、高等専門学校、短期大学、大学は資格・検定試験活用の有効性を踏まえつつ、生徒学生の英語力を向上させるため、4技能をバランスよく測ることができる効果的な資格・検定試験を活用することを要望している。

こうした背景を踏まえ、2016年度の第1回英語技能検定(2016年6月実施)において、まずは「2

* 釧路高専 創造工学科

級にライティングを導入し4技能化を図ることとされた。技能としての英語のみならず、日頃の生活や学習を通じて身に付けた知識の活用をしながら、受験者は与えられたトピックに対し、意見とその裏づけとなる理由を適切な語彙と文法を使用しながら英文で論述する能力が試されることになった。

3. 英検2級の問題形式の変更点

ライティングの導入に伴い、語句整序問題を削除した。リーディングの長文の空所補充問題において、これまでは空所の1語を選択肢から選ぶ形式だったが、1級、準1級のように空所に当てはまるものを複数の語句からなる選択肢から選ぶ形式となった。これにより文脈を読み取る能力をより精度高く評価するものとなった。解答時間も75分から10分延長し85分となった。

2級の4技能化の変更は準2級にも波及をもたらした。準2級も2級と同様、長文の空所補充問題において、これまでは空所の1語を選択肢から選ぶ形式だったが、空所に当てはまるものを複数の語句からなる選択肢から選ぶ形式になった。また正答率が割合高かった会話の空所補充の問題数を現状の8問から5問に削減し、全体の問題数のバランスや試験時間との調整が行われた。

2級の変更点

2015年度まで		2016年度以降	
大問	短文の空所補充問題	大問	短文の空所補充問題
大問	語句整序問題の削除	大問	長文の空所補充問題
大問	長文の空所補充問題	大問	長文の内容一致選択問題
大問	長文の内容一致選択問題	大問	英作文の導入

3-1. 実際の英作文問題

この項では実際の英作文問題がどのように出題されているか見てみたい。

実際問題

- 以下のTOPICについて、あなたの意見とその理由を書きなさい。
- POINTS は理由を書く際の参考となる観点を示したものです。ただし、これら以外の観点から理由を書いても構いません。
- 語数の目安は80~100語です。

TOPIC

Today, some companies allow their employees to wear casual clothes like jeans and T-shirts. Do you think the number of such companies will increase in the future?

POINTS

- Business culture
- Comfort
- Fashion

トピックは、「今日では社員にジーンズやTシャツのようなカジュアルな服装を認める会社がありますが、これからそのような会社が増えると思いますか。」

ポイントは、企業風土、快適性、ファッション。

このように日本語でも答えるのが難しい問題が出題される。このような質問に対して自分の意見をまとめて書く機会は皆無に等しい。この英作文は、課題で求められている内容が含まれているか、英文の構成や流れが分かりやすく論理的であるか、課題に相応しい語彙を正しく使えているか、文構造のバリエーションやそれらを正しく使えているかの4つの観点から評価される。

3-2. 英検2級英作文の攻略法

この英作文の取り組み方としては、内容の論理的な整合性や主張の正しさにこだわりすぎたり、難しい単語や凝った表現を用いることなく、まずは簡単な英文でいいので正しい英文で伝わるように正しい構成で書くことが基本攻略となる。基本的な単熟語や構文をしっかり身に付けるにはリーディングの教科書に掲載されている練習問題を利用活用することを勧める。あとは、英検の英作文のパターンに慣れておくこともたいせつである。最初に自分が賛成(agree)なのか反対(disagree)なのかを明確に主張する。自分の主張

について考え、それを証左する。具体例をあげて、最後に別の表現を使い再主張を繰り返す。

主張には・・・ I think that ~
理由には・・・ First of all, Firstly, Secondly ~
具体例には・・・ For example, For instance ~
再主張には・・・ Therefore, Because of all these reasons, I think ~

上記のような答えの形式に則り易しくても正しい英語でつじつまの合う英文を書くよう心構えをすれば英作文もそれほど大きな脅威とはならないであろう。問題の内容が難しいからといって難しい言葉で意見を書く必要はない。簡単な表現でいいので極力自信のある単語、自信のある言い回しを書くことが大切である。そのためには、リーディングの教科書にレッスンごとに練習問題として英作文の課題が掲載されているのでそれらを完璧に解けるよう学習することも有効である。

3-3. 英検準2級の攻略法

会話文の空所補充問題は比較的点数の取れる分野だったが改訂前は8問あったものが5問に減らされた。これは学生にとって大変不利である。長文の空所補充問題においてこれまでは空所の1語を選択肢から選ぶ形式だったが、空所に当てはまるものを複数の語句からなる選択肢から選ぶ形式に変わり英文の読解力が更に要求されるようになった。その都度のテストにもよるがE-mail文の内容も少し難易度が高くなっているようである。長文問題の中でもE-mail文は取り組みやすい問題だったが話題によっては何について書いているのかストーリーを理解できない学生もいるだろう。今までは1つの語を選択肢から選ばればよかった長文問題も複数の語句からなる選択肢から選ばなければならなくなり、改訂前は空所の前後を見て答えを出せるケースが多かったが改訂後はストーリー全体を把握しなければならなくなった。当然、その分時間がかかってしまい準2級問題全体の最後までたどり着くことができなくなり最後の問題は塗り絵し式に答えてしまうケースも出てくる可能性がある。

英検準2級を制するには、2級にも言えることだがリーディングの教科書をフル活用することである。文部科学省が高校卒業時には英検2級或

いは準2級を取得することを目指しているのであるから教科書もそれに相当する内容であるはずである。英検に出題されている単熟語や文法は教科書をしっかり学習していれば十分対応できるものである。英検の長文問題も教科書で使用されているリーディング文を訳すことができればそれほど苦勞なく問題文を読むことができる。普段から英語のリーディングの教科書をよく読み、重要な単熟語や文法の問題に取り組むことが英検合格への道につながる。

4. TOEIC の変更点

TOEIC の問題は大幅に改訂された。

4-1. TOEIC のリスニングの変更点

- Part 1 写真問題 (Photographs)
10問 → 6問
- Part 2 応答問題 (Question-Response)
30問 → 25問
- Part 3 会話問題 (Conversations)
30問 → 39問
- Part 4 説明文問題 (Talk: Single speaker)
30問 → 25問

従来の形式では比較的得点しやすかったパート1の写真描写問題やパート2の応答問題が大幅に削減され、パート3の会話問題が増やされている。会話も2人だけでなく3人の会話が含まれるようになった。しかも、会話を聞きながら図や表を見て情報を関連づけて答えを導き出す問題が出題されるようになった。更に、行間を読み取って相手が言わずして暗示していること、意図していることを会話の流れの中から読み取ることも必要とされるようになった。パート2の応答問題では、省略形、例えばgoing to が gonna になったり、文の一部だけの応答だったとりと自然な会話表現を取り入れている。3人の会話等、より複雑化したやり取りを聞き取るリスニングスキルが問われるようになった。

パート3と4の図表の問題はそれほど難しくはない。設問と選択肢の先読みが大事であるが、先読みする段階で図表の情報にもきちんと目を通せるかどうかによる。それができないと問題を解くリズムが崩れてしまう。図表は個人的に差があっても視覚的要素があったほうが単調さが薄れ

るので飽きずに解答できる。

4-2. リーディングの変更点

- Part 5 短文穴埋め問題
(Incomplete Sentences) 40問 → 30問
- Part 6 長文穴埋め問題
(Text Completion) 12問 → 16問
- Part 7 長文読解問題
(Single Passages, Double Passages)
48問 → 54問

リーディングセクションでは読む量が格段に増えた。受験テクニックでどうなるものでもなく、きちんと読まなければ解答できない問題になった。リーディングセクションの長文の量が増えたので、時間も足りなくなる可能性が高くなった。内容も、実際のビジネスの場面でもおかしくない状況設定での問題が増えた。

パート5は短文穴埋め問題である。短い文章内に設けられた空白に最も適した語句を選択肢から選んで入れる問題である。語彙力或いは文法力が問われるセクションで割合正答が得られやすい問題であったが従来の40問から30問へと大幅に削減された。

パート6の問題形式は、語彙型、文法型、文章挿入型と大きく3つのパターンに分類されるようになった。これまでは語彙型と文法型のみのものであったのが、文書内の空欄に最も適切な1文を選ぶ形式が新たに追加された。これにより空欄の前後から解答を導き出す方法は通用せず文書全体を把握しなければいけなくなり難易度が高まった。

パート7は、これまで1つか2つの文書を使った読解問題だったのが、そこに3つの文書を見て答える問題が加えられた。2つでも大変だったが、より多くの分散した情報を合わせて理解する必要がでてきている。また、設問に掲載された1文が、文章のどこに入れるのかを問う問題も出題され「全体への理解」がますます必要となる問題となった。単語はそれほど難しくなく、英語の難易度ではなく、読むボリュームが問題となる。あれほどの量だと、すべて読んでから設問を解答していく解き方はかなり難しい。読んだことをすべて覚えていられないので、設問を読んでから結局また長文の該当箇所を探して読み返すことになってしまう。更に、パート7ではチャットやテキスト

トメッセージを用いた問題が登場し、より簡潔な受け答えの表現やパターンを理解することも要求されるようになった。

4-3. 新TOEICの攻略法

これまで見てきたことを総括すると新TOEICの改訂ポイントは、より日常に近い表現が増えたこと、現代コミュニケーションツールを使用したやり取りが増えたこと、文全体を理解する能力が問われるようになったこと、分散された情報をまとめて処理する能力が問われるようになったことである。

これらのポイントに対処する方法としては、TOEICテストに出される英文法問題の出題パターンを押さえておくこと、頻出単語を覚えること、英文を速く読んで解くトレーニングをしておくこと、そして試験形式に慣れることが挙げられる。英文を読むにあたって英単語と英文法の基礎知識は言うまでもなく絶対的に必要なものである。試験形式に慣れるためには、本番と同様に時間を測定し、リスニング、リーディングを解いてみることである。それにより限られた時間のなかで、自分がどのように考え、どのように各パートを解いていくのかを把握できる。始めは、リーディングセクションで時間が足りなくなるであろう。重要なのはどうすれば制限時間内に解ききることができるかを考えることである。テストの性質を知った上で、自分がどのくらい正解すればよいのかの目標スコアへの到達イメージをつくる。

TOEICが新形式になって英文を読む量が増えた。パート7の設問が48問から54問へ数が増えたに加えて、文を挿入する問題、空所に入れる文を選択する問題では、文脈を踏まえた上で解く必要があり、本文をしっかりと読みこなさなければならない。限られた時間内に英文を読みきって正解を導き出す必要がでてくる。つまり、英文を速く読んで解くトレーニングを行わないと、本番で時間が足りなくなるリスクが高くなる。これに対応するには、毎日少しでも読むトレーニングをすることが大切である。少しずつ読む量を増やしていき、英文の内容をしっかりと理解することを心がけるようにする。読むスピードに関しては毎日トレーニングを続けることで自然と上がっていくのであまりスピードを意識しなくてよい。英文読解力が身に付かないままスピードを上げてしまうと読み落としなどをして正しく読みきれなくなっ

てしまうからだ。

リスニングでは3人の人物による会話、図を絡めた問題、発言の意図を問う問題が追加されるなどしてバリエーションが多様化している。できるだけ早めに新形式に慣れて、解ききれるためのトレーニングをすることが大切である。リーディング対策としてはパート7を読みきるトレーニングを中心とし、どうすれば制限時間内に解ききることができるのかを考えることがポイントになる。新形式では問題の性質上、「文脈の理解」がカギになる。このことは、問題作成元であるETS(Educational Testing Service)の問題作成責任者が“Context base”「(文脈をベースに)」と言っていることから明らかである。自分が解いてみて、復習して、どうやれば時間内に、解ききれるかを考えてトレーニングするのがTOEIC対策のカギとなるであろう。

5. 終わりに

本稿では、日本で主要な資格試験である英語検定とTOEICがどのように改訂されたかに焦点を当て、改訂に伴いそれらの内容にどのように変更がなされたのか探査した。そのうえでそれらの変更点にどのように対処していけばよいのかを検証した。英検2級では英作文が導入され「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能化が図られた。準2級では長文空所補充問題で1語からなる選択肢から複数の語句からなる選択肢へ変更され、より読解力が要求される問題へと変更された。

TOEIC 問題では、正答率が比較的高い写真描写問題が削減され、会話問題が増やされた。会話も2人だけでなく3人の会話が含まれるようになった。しかも、会話を聞きながら図や表を見て情報を関連づけて答えを導き出す問題が出題されるようになった。更に、行間を読み取って相手が言わずして暗示していること、意図していることを会話の流れの中から読み取ることも必要とされるようになった。リーディングセクションでは読む量が格段に増えた。受験テクニックでどうなるものでもなく、きちんと読まなければ解答できない問題になり、内容も、実際のビジネスの場面でもおかしくない状況設定での問題が増えた。

いずれの資格試験で言えることは、試験そのものがより実用的になったということである。より日常に近い表現が増え、現代のコミュニケーションツールを使用したやり取りが増え文全体を理

解する能力が問われるようになった。これらの変更点に対する対応策としては、テクニックが通用しなくなっているので普段から多読して長文に慣れることが重要である。つまり、普段から「たくさん聞いて、たくさん読む」ことが一番の対応策になると考察される。

引用文献

TOEIC Test プラス・マガジン 東京：リント

大里 秀介 (2016) 「TOEICテスト新形式完全攻略模試」東京：学研

英検HP：

<http://www.wiken.or.jp/eiken/exam/2016renewal.html>